

調査の概要

平成30年11月5日
第5回市民活動推進委員会
資料3

1 調査目的

- ・第4回市民活動推進委員会にて議題となった、申請書第3号様式の「書きづらさ」を検証するため。
- ・来年度実施市民活動推進補助事業を募集する際の、アピールポイントを調査するため。

2 調査対象

平成28年度～平成30年度実施市民活動推進補助事業に申請した団体。

平成28年度実施:13団体

平成29年度実施:11団体

平成30年度実施:6団体

※複数年度申請団体は、初めて申請した年度にカウントをし、計30団体。

3 調査事項

- (1) 補助の受給実績について
- (2) 茅ヶ崎市市民活動推進補助制度の申請書類について
- (3) 茅ヶ崎市市民活動推進補助制度を利用するメリットについて
- (4) 今後の茅ヶ崎市市民活動推進補助制度の利用について

4 回答方法(①か②のいずれかの方法で回答)

次の①～②のいずれかの方法での回答を求めた。

- ① 郵送したアンケート用紙を、FAXにて返送
- ② 次のア～ウのいずれかの方法で、市ホームページのアンケートフォームより回答
 - ア 郵送したアンケート用紙に記載のQRコードを読み取る方法
 - イ アンケート協力を依頼するメールに添付のURLにアクセスする方法
 - ウ 市ホームページにて「市民活動げんき基金 アンケート」でサイト内検索する方法

5 実施期間

平成30年8月30日(金曜日)～平成30年9月17日(月曜日)

6 回答団体数

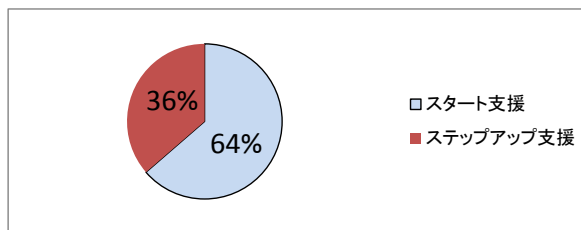
25団体

アンケート集計結果

1 補助の受給実績について

【設問1】 茅ヶ崎市市民活動推進補助制度（以下「当補助制度」）で補助を受けた回数を教えてください。（該当する番号に○）

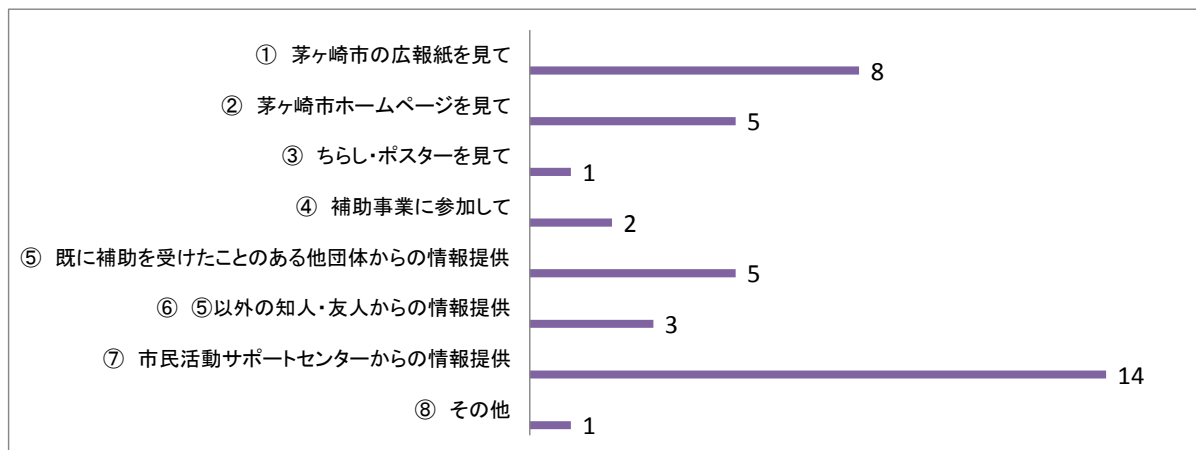
回答	回数	割合
スタート支援	21	64%
ステップアップ支援	12	36%



【設問2】 当補助制度のことを、どうやって知りましたか。（該当する番号に○）【複数回答可】

回答	件数	割合
① 茅ヶ崎市の広報紙を見て	8	21%
② 茅ヶ崎市ホームページを見て	5	13%
③ ちらし・ポスターを見て	1	3%
④ 補助事業に参加して	2	5%
⑤ 既に補助を受けたことのある他団体からの情報提供	5	13%
⑥ ⑤以外の知人・友人からの情報提供	3	8%
⑦ 市民活動サポートセンターからの情報提供	14	36%
⑧ その他	1	3%

サポートセンターからの支援の一環で制度を紹介していただいていることが現れている。また、広報紙の効果も大きい。



その他意見

・茅ヶ崎市教育委員会と情報交換している中で、この基金のことを紹介されました。

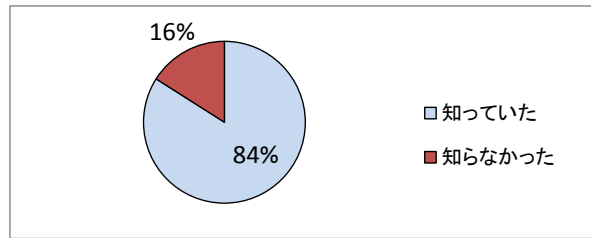
【設問3】 当補助制度以外に補助・助成を受けた経験があれば、その補助・助成制度名を御記入ください。

「子どもゆめ基金」(国立青少年教育振興機構)
 「市民活動応援プログラム」「たすけあい活動助成金」(パルシステム神奈川ゆめコープ)
 「キリン・福祉のちから応援事業」(キリン福祉財団)
 「福祉車両購入費助成支援」(神奈川県福祉事業協会)
 「福祉たすけあい基金」(公益財団法人かながわ生き生き市民基金)
 「研究・研修助成」(一般財団法人光之村)
 「こどもたちの明るい未来づくり基金」(アサヒ飲料株式会社×神奈川県共同募金会)
 「ボランティアグループ・当事者団体活動費助成金」(茅ヶ崎市社会福祉協議会／鶴嶺西地区社会福祉協議会)
 「リユースPC寄贈プログラム」(イーパーツ)

2 茅ヶ崎市市民活動推進補助制度の申請書類について

【設問1】 当補助制度の利用や申請書の書き方については、市民活動サポートセンターや市民自治推進課の窓口で相談することができるほか、次年度の事業実施を検討している団体を対象に「企画書作成会」を実施しています。このようなサポートが受けられることを知っていましたか。(該当する番号に○)

回答	件数	割合
知っていた	21	84%
知らなかった	4	16%
合計	25	100%

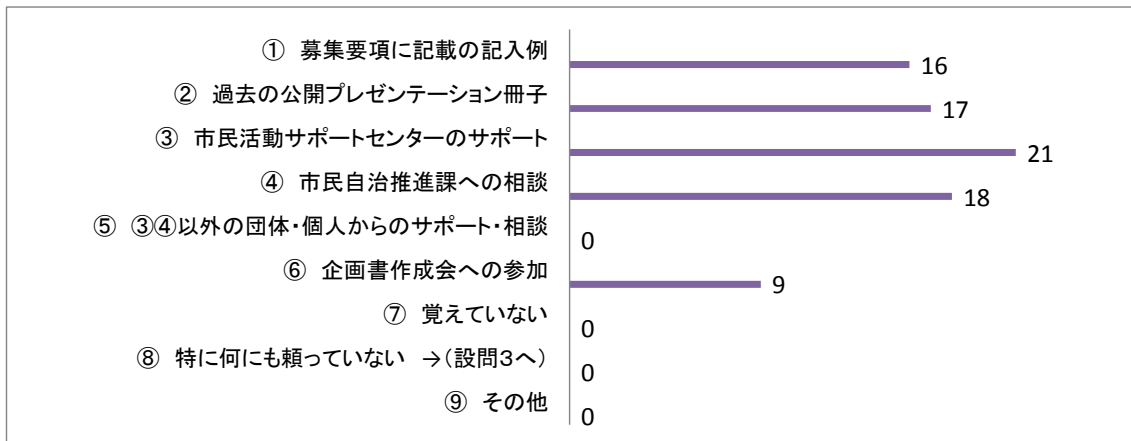


【設問2】 申請書類の記入の際に活用したもの、役に立ったと思うものはなんですか。(該当する番号に○)【複数回答可】

回答	件数	割合
① 募集要項に記載の記入例	16	20%
② 過去の公開プレゼンテーション冊子	17	21%
③ 市民活動サポートセンターのサポート	21	26%
④ 市民自治推進課への相談	18	22%
⑤ ③④以外の団体・個人からのサポート・相談	0	0%
⑥ 企画書作成会への参加	9	11%
⑦ 覚えていない	0	0%
⑧ 特に何にも頼っていない →(設問3へ)	0	0%
⑨ その他	0	0%

相談せず自力で書類を整理する場合、記入例を参考としている

直接相談することによるメリットを感じた団体が多い。



【設問3】 設問2で「⑧特に何にも頼っていない」を選択した方にお尋ねします。その理由を教えてください。(該当する番号に○)【複数回答可】

回答	件数	割合
① 団体の力だけでも記入できたから		
② 時間的な余裕がなかったから		
③ 窓口に出向いたり電話することが手間に感じたから		
④ このようなサポートがあることを知らなかったから		
⑤ その他		

該当団体なし

- ① 団体の力だけでも記入できたから
- ② 時間的な余裕がなかったから
- ③ 窓口に出向いたり電話することが手間に感じたから
- ④ このようなサポートがあることを知らなかったから
- ⑤ その他

【設問4】 事業計画書(第3号様式)について、もっとこうであつたらいいなと感じた点があれば、御記入ください。【自由記

- 例) 項目数が少ないので、もっと項目が細分化されていて、何を書くか明確であるとよい。
- 例) 項目数が多くて書くのが大変なので、もっとシンプルで書くところが少ないとよかった。
- 例) 特に問題なかった。

★スタート支援
★ステップアップ

項目数は「適当である」と判断した団体が回答の65%を占める。制度改正以前より、項目数を減らしたものの、これでも多いと回答した団体が、15%。逆に項目を細分化すべきと回答した団体は5%にとどまった。

(1) 適当

★★	特に問題なかった。(10件)
★	具体例も提示されており、記入しにくいことはありませんでした。
★	私たちの場合は、NWの講習会をやることが明確だったので、この3項目で十分に伝えることが出来たと思う。
★	はじめて申し込みをしたため、大変だという感覚はなく、こういうものだと記入したため、とくに思うことはなかった。

(2) 項目が多い

★	記入内容が細かかったので、仕上げるのは大変でしたが、別の助成金の申請をする際に経験が活かされたので結果的にはプラスの経験になりました。
★★	私たちの活動が多岐にわたっているために感じたのかもしれないが、記入項目が多くて大変だった。
★	記載する項目を決めて、フォーマットは自由というのはどうでしょうか。プレゼンテーション用に結局作り変える必要があったので。何をやるのか、なぜやりたいのか、どのようにやるのかをシンプルにしてもよいと思います。

(3) 細分化

★	実施する事業について 書類1の事業の概要欄には、別添事業計画書のとおりとなっているが、該当書類の枠は、各団体が自由記載なので、一見しただけでは、どのような事業かわかりにくい。内容、目的、開催当日日時、場所、対象者、参加費用等の表記は統一させ、その他枠で詳細の情報を記載できるといいのではないかと思います。
---	--

(4) その他

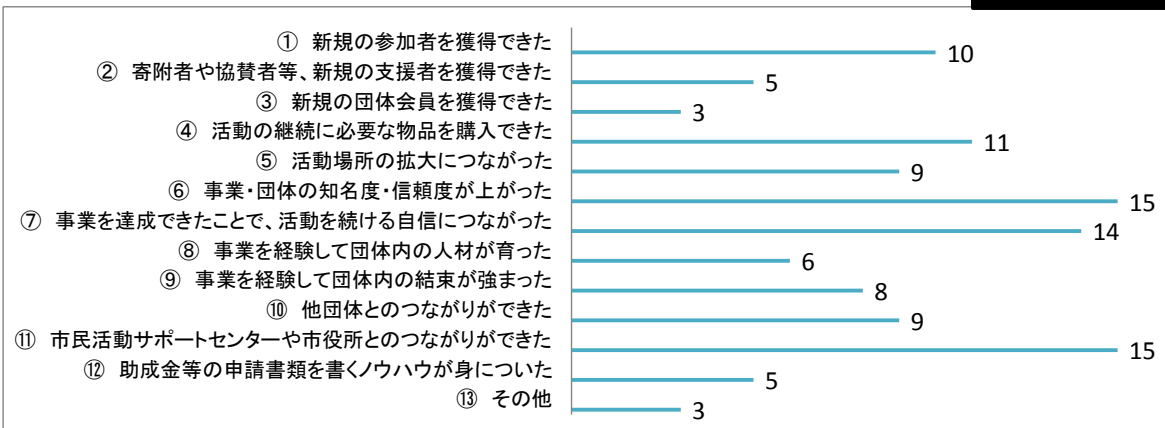
★	「事業の背景について」具体的に何を書くかわかりにくかったが、サポセンなどでアドバイスをいただけてよかった。
★	〇〇について、の〇〇が、具体的でないので書きづらいと感じ、また、〇〇について書くには記入欄が小さく感じました。
★	今のところ、問題はないと思います。「実施する事業について」の項目で、事業タイトルなのか事業の内容を記入するのか具体的に書かれると書きやすいかなと思います。

3 茅ヶ崎市市民活動推進補助制度を利用するメリットについて

【設問1】 当補助制度を利用して事業を実施することで、資金面以外にどのようなメリットがあったと感じますか。(該当する番号に○)【複数回答可】

回答	件数	割合
① 新規の参加者を獲得できた	10	9%
② 寄附者や協賛者等、新規の支援者を獲得できた	5	4%
③ 新規の団体会員を獲得できた	3	3%
④ 活動の継続に必要な物品を購入できた	11	10%
⑤ 活動場所の拡大につながった	9	8%
⑥ 事業・団体の知名度・信頼度が上がった	15	13%
⑦ 事業を達成できたことで、活動を続ける自信につながった	14	12%
⑧ 事業を経験して団体内の人材が育った	6	5%
⑨ 事業を経験して団体内の結束が強まった	8	7%
⑩ 他団体とのつながりができた	9	8%
⑪ 市民活動サポートセンターや市役所とのつながりができた	15	13%
⑫ 助成金等の申請書類を書くノウハウが身についた	5	4%
⑬ その他	3	3%

げんき基金事業の実施とあわせて市後援名義を取得するなどに取り組み、団体の知名度や信用度の向上につなげた。また、事業を通して、市役所やサポートセンターとの関係性を構築したこと、必要なものの調達などのメリットがあったことを確認した。事業を成し遂げ、自信をつけた団体や、人材育成につなげた、結束力を高めたなどという団体も見られる。



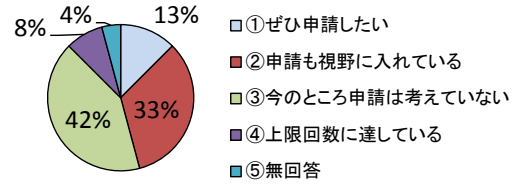
その他意見

- ・審査員さんのコメントが活動の指針として大変参考になりました。当会のみならず他団体へのコメントも学びになりました。
- ・充実した活動ができた。
- ・広報活動が強まった。

4 今後の茅ヶ崎市市民活動推進補助制度の利用について

【設問1】 再度、当補助制度に申請したいと思いますか。(該当する番号に○)

回答	件数	割合
①ぜひ申請したい	3	13%
②申請も視野に入れている	8	33%
③今のところ申請は考えていない	10	42%
④上限回数に達している	2	8%
⑤無回答	1	4%



【設問2】 その他に当補助制度について御意見があればお聞かせください。

※意見の左にある数字は、【設問1】の回答です。

(1) 補助制度の価値について

①	このような基金は市民団体にとって大きな励みともなります。それに伴い責任も発生しますので、充実した取り組みをしなければと気が引き締まる思いがあります。
②	公務員として働く上で収入があってはなりませんので、大変有難く思っております。
②	スタートアップの申請時は、事業の立ち上げと同時であったため、計画と予算執行する際の差額取扱いについての対応に苦労した。小さな団体に対して、企画を提案することにより人的、資金的に支援をいただけたことは、活動をスタートさせるのに非常に有益であった。
②	様々な団体さんの活動を知り、市民活動とは何か？と感じることがあった。自分の団体は市民活動と思い活動してきたが、他からみたら緊急性や問題解決ではなくただの趣味や遊びに捉えられたかも知れない。何故なら私自身も、それ仕事のPR？貴団体だけの盛り上がり？(ステップアップも含め)と感じられることがあった。市民からの寄付も入っているので採択の査定は難しいと察する。だが、私の団体はこの制度を有効に使わせて頂けた。なので、自力で頑張っている他団体にもこの制度の利用を促し、申請しやすさと沢山の活動から採択される制度になることを願う。
③	財源のどばい市民団体にとってこの補助金制度は大いに助けられました。
③	これまで地道に要約筆記活動を続けてきましたが、今回げんき基金のおかげで、一般の方も対象にした、新しい試みにチャレンジすることができました。このような助成金は日ごろの活動をさらに拡大・充実していくうえで大変助かると思えました。

(2) 事業申請や実施に向けた流れについて

②	お忙しい中、たくさんの温かなサポートに感謝しております。引き続き何卒よろしく願いいたします。
③	初めてこの制度を使わせてもらいましたが、やはり公的なものだったので、申請書類の提出や、終わった後の実施報告書、領収書添付など、結構大変な思いをしました。でも、サポートセンターや市民自治課の方が親切に教えてくださったので、事業を行うことができました。事業自体は大成功だったので、やって良かったと思います。市民の方が健康に留意しているのがよくわかりましたし、現在多くの会員と楽しくNWが出来ているのも、この事業が出来たおかげと感謝しています。この先、NWを続けた会員の筋肉量や骨密度を測定できる機会を作ることが出来れば良いと思います。

(3) 事業の評価について

②	前回の支援について、当課担当者の皆様には、趣旨を理解し、文書作成のサポートをしていただき、大変感謝しております。一方で、プレゼンの際、委員の方のご発言でご自分の経験を披露しつつ、市民活動はこうあるべきだとかのご指摘には、疑問を感じました。団体が、げんき基金制度を活用し、公益性を高め、継続的に活動の幅を広げていくために、団体の独自性を尊重した上で、こういうやり方もあるよとのご提示や方向性を示していただけたいのではないかと思います。
③	全く見当違いの回答で却下されたので申請はしません。
③	補助に対する判断基準は文書で理解してますが、プレゼンで判断を頂く方々の専門性が提案事業に対する判断に不満を感じました。(質問の内容で理解レベルが推測できます) 事業範囲縮小判断をされたのですが、その内容が十分に説明をせず、又それへの事前ディスカッションが無かった事も不満を感じました。

(4) 補助制度のあり方について

①	助成金が採択された他の活動に関しての情報が入ってこないで、横の繋がりが市民との繋がりを強化できたら更に価値が高まるかと思いました。市の助成金だからこそできる、金銭面以外での巻き込み方があっていいかと思いました。
①	補助金の使途について自由度を持たせる必要があるだろう。資源の半分は個人、団体の寄付金であり、彼らに市民活動をせよめる意思はない。違反使途があれば事業報告会で返金要求措置をすればよい。
②	市民が公や誰かのために事業を実施するとよい市民参加モデルだと思います。もともと沢山の人が気軽に申請できて、市民活動が広がると思います。税金や寄付金ということもあるのですが、申請や精算を通すのがとても難儀な印象です。実際私も事業を途中で変更したことで、変更届を提出し委員会の承認を得るといった流れをとりましたがかなり大変で、サポセンや市の方に大変お手数をおかけしてしまいました。一番最初の企画の意図に沿ったものであればある程度自由に10万円を活用できるようにしたほうがハードルが下がり、沢山の人が思い切って色々出来るのではないかと感じます。実施報告はただの完了報告ではなく、やってみてどう感じて、どんな学びがあったのかを問うようにする。参加者が増えればその分最初の企画内容で選考もできますし、結果良い事業も増えるのではないかと思います。失敗する事業もあっていいと思いますので、やってみるという姿勢に重きをおいてもいいのではないかと思います。偉そうに色々記載しましたが、申請から精算までのやり取りでとても多くの事を学ばせて頂き感謝申し上げます。これからも自分が住んでいる街にただ住むだけでなく、何か関わる機会をもっていきたいです。今後ともよろしくお願いいたします。
③	補助制度の資金運用が「当年度決算」となっているが、活動の継続・発展性を考慮すれば、本当に必要な「次年度の必要経費」(工作教室材料の調達など)までは含めてほしい。
③	講演会を行ったが、講師謝礼の上限が2万円です。有名な講師は講演料が高いので、上限を上げてもらいたい。
③	税金を使わせていただくので仕方ないかもしれないが、活動内容を伝え、それに対して助成していただくというよりも、選考会議にいかに通るか苦労した印象が強かった。
④	げんき基金の助成を頂けたことで、立ち上げた市民団体としてのアイデアが実現し、活動が広がりました。有難うございました。回数の上限がある事だけが残念です。市民団体として、今後も継続して思い切った活動をするために、少額でもいいので、上限が無い補助制度があると嬉しいです。